

編集室

『謎解き少年少女世界の名作』

（長山靖生著／新潮新書）によると、アニメーション等でも日本人の涙を誘ってやまない古今の児童文学も見方を変えると、発表当時の法制度、社会状況、科学の発展状況、世界的な国家の力関係等が如実に反映されているという。これは、特に新しい発見とは言い難い。もとより、文学的な専門分野では当然のこととして、認識されているものと思われる。逆

に法学、経済学、理工系など他の専門分野からはどの程度認識されているものなのか。

教養という概念をどのように考えるか。ちなみに冒頭にあげた新書本の著者は、本業歯科医であるが、歴史に造詣が深く、専門書ではないが多くの一般教養書を著している。

大学の多くは、15年ほど前までは、1、2年次は一般教育科目のみを、専門科目は3年次から設置していたが、1991年度の大学設置基準の改正により、1年次から専門科目を設置するようになった。近年の教育

制度、法制度改革等により、高度専門教育を大学院で行う方針がでてきたが、就職に関して言えば、戦後久しい以前から大学における専門教育は必ずしも重要なフアクターではなかった。大雑把に言えば、在籍している大学、学部、学科等の全体的レベルが、企業の期待値を超えていれば後は企業のカラーに合うキャラクターか否かが問われたように思われる。出身大学や成績表により確認される学力に拘わらず期待値の物差しとして機能しなくなったのは、一般的に教養も含んだ学生個々人のキャラクターバランスの崩れが目に見えてきたからといえよう。

一つの専門分野を充分学修するには他分野の学修も必要であり、よりよい社会人になるためにも、キャラクターに結びついたバランスの良い広い知恵を必要としている。果たして現在の大学の制度がこの二つの需要に答えられるものか、学生個々人が学生の身分の間に学力とともに身につけなければならぬものについて、理解を促進することができるか。設置基準等法規上の大学の自由度が拡大していることを考慮すれば、大学は迅速に対応し、その自己評価に厳しく臨まざるをえない。

（入試・広報センター事務部長

宮崎寛）

表紙・絵



古びたギターの静かな調べをききながら、知らないうちに眠って夢を見たい。

しに行こう。

（文学部1年 珍田生碧Ⅱ
美術倶楽部CATS）

それは子猫のように無邪気な夢。好奇心だけでどこへだつて冒険でき

る。夢はいつか覚めてしまうだろう。そうしたら、その夢のつづきを、探



2006

秋季特別号

2006(平成18)年10月20日発行 No.198

発行 中央大学広報委員会

〒192-0393
東京都八王子市東中野742-1

〈編集担当〉

広報課 ☎042-674-2146

印刷 泰成印刷株式会社
〒130-0026
東京都墨田区両国3-1-12
☎03-3631-8141